

# 公益社団法人 物理探査学会

## 令和2年度通常総会資料

日 時 令和2年6月8日(月)9:30～11:00

場 所 公益社団法人物理探査学会事務局会議室

東京都千代田区東神田 1-5-6

総会次第 1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 総会開始の宣言

4. 議 事

決議事項

第1号議案 令和元年度事業報告及び決算報告承認の件

第2号議案 令和2年度・3年度役員改選の件

第3号議案 定款及び役員の報酬、変更の件

第4号議案 名誉会員推薦の件

報告事項

令和2年度事業計画及び予算について

(休 憩)

5. 令和元年度物理探査学会表彰

(1) 論文業績賞

(2) 優秀発表賞

(3) 学会業績賞

(4) 永年在籍会員表彰

(5) 名誉会員表彰

6. 閉会の辞

\* 本資料では、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの期間を令和元年度と表記します。



# 第1号議案:令和元年度事業報告及び決算報告承認の件

## I. 令和元年度(2019年4月1日～2020年3月31日)事業報告

令和元年度は、本学会の目的である物理探査の学理及びその応用に係る技術の進歩、普及、並びに物理探査に携わる技術者の資質向上などを図るために、研究発表会やセミナーの開催、広報や表彰事業などの各種事業や研究会活動を活性化し、探査技術の普及促進にも注力してきました。

### 1. 学会事業活動

#### [1] 研究発表会の開催

##### (1) 第140回学術講演会及び百周年記念講演

・開催日 令和元年6月3日(月)～5日(水)

・開催場所 早稲田大学 国際会議場(東京)

・一般講演 口頭発表 46件、ポスター発表 15件

・学会賞受賞講演

Robust data processing of noisy marine controlled-source electromagnetic data using independent component analysis

Naoto Imamura(Oregon State University), Tada-nori Goto(Kyoto University),

Takafumi Kasaya(JAMSTEC) and Hideki Machiyama(JAMSTEC)

液状化発生域におけるS波反射法および表面波探査－茨城県潮来市日の出地区の例－

横田俊之、神宮司元治(産業技術総合研究所)、山中義彰、村田和則(サンコーコンサルタント株式会社)

・日本の物理探鉱(探査)100周年記念講演

(1) 総論:「最初の物理探査と地震波動の数値シミュレーション」

佐々 宏一(京都大学名誉教授、一般財団法人地球システム総合研究所)

(2)「明治時代、地質学的論争の陰に埋もれた日本最初(?)の磁気探査」

大熊 茂雄(物理探査学会会長、国立研究開発法人産業技術総合研究所)

(3)「電気探査のこれまでとこれから」

竹内 瞳雄(一般社団法人省力型3次元地中可視化協会、元農村工学研究所)

(4)「日本の電磁探査の歩み」

斎藤 章(早稲田大学名誉教授)

(5)「日本の地震探査100年の歩み」

太田 陽一(元石油資源開発株式会社)

・特別講演

(1)「地下可視化技術の社会への貢献について

～物理探査～ 災害大国に生きる日本人により身近に！」

鈴木 浩一(北海道大学大学院特任教授)

(2)「プラタモリの危機感

～「NHK、疲れるわあ～」と言われないための努力と工夫～」

林 幹雄(日本放送協会制作局第2制作センター エンターテインメント番組部 チーフ・プロデューサー)

・参加者 179名

(2) 第141回学術講演会

・開催日 令和元年10月29日(火)～10月31日(木)

・開催場所 いわて県民情報交流センター(盛岡)

- ・一般講演 口頭発表 52 件, ポスター発表 9 件
- ・特別講演
  - (1)「岩手大学と宮沢賢治」  
大野 真男(岩手大学教育学部教授)
  - (2)「東日本大震災から8年半、岩手復興の現状と課題」  
斎藤 徳美(岩手大学名誉教授)
- ・招待講演  
An optimal anisotropic full-waveform inversion for marine seismic data  
Dr. Ju-Won Oh (Chonbuk National University)
- ・参加者 134 名

## [2] 会誌, 書籍の編集発行等の事業

- (1) 和文会誌発刊  
和文誌「物理探査」は J-Stage に逐次掲載して閲覧できるようにした(掲載後 2 年間は会員限定公開)。また、掲載された 1 年分の論文についてまとめたものを冊子として発行し、予約販売した。
- (2) 英文会誌発刊  
豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同で出版する英文誌「Exploration Geophysics」は電子版として年間 4 号を発行し、ウェブサイトから閲覧できるようにした。
- (3) 技術資料等の頒布  
既存の以下の技術資料等の出版物を継続して頒布した。
 

・物理探査ハンドブック増補改訂版	冊子 17 冊, CD 25 枚
・会誌「物理探査」DVD (第 1 卷～第 60 卷)	3 冊
・学術講演会論文集 DVD (第 43 回～第 118 回)	3 冊
・国際シンポジウム論文集 DVD (第 1 回～第 8 回)	3 冊
・地下を診る技術～驚異の物理探査～	27 冊

## [3] 研究開発, 調査, コンソーシアム活動等の事業

- (1) 研究会活動
  - ・地震防災研究会を令和元年 12 月 5 日(木)に東京工業大学で開催した。
  - ・地盤探査研究会を令和元年 8 月 22 日(木)及び令和 2 年 1 月 7 日に、早稲田大学西早稲田キャンパスで開催した。
- (2) 研究委員会活動
  - ・「強震動地盤モデル作成を対象とした物理探査成果書式, 地盤モデルデータ構造検討委員会」を令和元年 4 月 18 日(木)に物理探査学会・事務局会議室で開催し、関連する物理探査成果の書式化、三次元地盤モデルの書式化について検討した。
  - ・「地盤調査のための物理探査法標準化検討委員会」を令和元年 9 月 17 日(金)と令和 2 年 2 月 13 日(木)に物理探査学会・事務局会議室で開催し、物理探査法の基準・規格について検討した。
  - ・「学術講演会・国際シンポジウム将来構想検討委員会」を令和元年 5 月 17 日(火)と 8 月 27 日(火)に物理探査学会・事務局会議室で開催し、学術講演会や国際シンポジウムに関して検討した。

## [4] 講座, セミナーの開催, 関連学協会との協力等の事業

- (1) 物理探査セミナー
  - ・開催日 令和元年 7 月 2 日(火)～7 月 4 日(木)
  - ・開催場所 東京大学山上会館(東京)
  - ・参加者 42 名/1 日平均
- (2) ワンデーセミナー

- ・開催日 令和 2 年 2 月 7 日(金)
- ・開催場所 全水道会館(東京)
- ・テーマ PS 検層の新しい仕様～基礎技術の温故知新～
- ・参加者 63 名

(3) キャンパスビギット

令和元年度は、「地面を探る、地球を探る、物理探査の世界」～物理探査のお仕事～というタイトルで令和元年 7 月 18 日(木)に富山大学において開催した。参加者は 54 名であった。  
また、同様に令和 2 年 1 月 15 日(水)に千葉大学においても開催し、27 名の学生が参加した。

(4) 関連学協会との連携・協力

① 国内関連学協会

(公社)日本地球惑星科学連合、(一社)資源・素材学会、(一社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(公社)日本地震学会、(一社)日本応用地質学会、(公社)地盤工学会、(公社)計測自動制御学会、石油技術協会、(一財)日本非破壊検査協会、(公社)日本地震工学会、(公社)農業農村工学会と講演会等で相互に協力した。

② 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星連合大会 JpGU-AGU Joint Meeting 2019 における三つのセッション「空中からの地球計測とモニタリング」、「浅層物理探査が目指す新しい展開」、「地震波伝播:理論と応用」への共催、および学協会デスクスペースでのブース展示を行った。

③ 日本応用地質学会との連携

日本応用地質学会研究発表会において、測量・計測セッションについて共催した。

開催日: 令和元年 10 月 24 日(木)・25 日(金)

開催場所: シティホールプラザ アオーレ長岡

④ 海外関連学会

下記関連国際学会の講演会・年次総会に参加して国際交流を深めると共に、国際レベルの物理探査技術を会誌、ホームページ等を通じて紹介した。

- ・欧州物理探査学会(EAGE)
- ・米国物理探査学会(SEG)
- ・環境土木物理探査学会(EEGS)
- ・豪州物理探査学会(ASEG)
- ・韓国物理探査学会(KSEG)
- ・中国石油物理探査学会(SPG China)
- ・ベトナム物理探査学会(VGA)
- ・インドネシア物理探査学会(HAGI)

⑤ 韓国物理探査学会(KSEG)との学術講演会における相互派遣

韓国物理探査学会との関係強化の一環として双方の学術講演会に代表者を派遣して交流を図った。第 141 回学術講演会に韓国から 3 名の代表が参加し、招待講演を行った。また、韓国 チェジュで 11 月 6 日～8 日に開催された講演会に物理探査学会から 2 名が参加し、講演を行った。

⑥ SEG 等海外学会教育プログラムの開催支援

海外の関連学会 SEG が主催し、日本国内で実施する下記の物理探査技術の教育・普及活動に對して参加者の募集、会場の運営等、その支援を行った。

- ・SEG 2019 Honorary Lecture(HL) to the South Pacific

演題: Seismic attenuation, dispersion and anisotropy in porous rocks: Mechanisms and Models

講師: Boris Gurevich (Curtin University)

- 開催日:2019年5月23日  
 開催場所:国際石油開発帝石, 参加者 48名  
 •SEG 2019 Distinguished Instructor Short Course (DISC)  
   演題:Physics and Mechanics of Rocks:A Practical Approach  
   講師:Manika Prasad (Colorado School of Mine)  
   開催日: 10月11日(金)  
   開催場所:石油資源開発株式会社, 参加者 7名  
 •SEG Virtual Lecture  
   —De-risking exploration and development with realistic 3D geologic modeling, geophysical simulation, and imaging seismic (9/4, 10/23)  
   —Induced Polarization Effect in Time-domain Electromagnetic Prospecting, Noise or Signal? (9/9, 9/30)  
   —Advancing the Use of Geophysical Methods for Sustainable Groundwater Management (10/9)  
   —Reservoir Characterization for the Next Generation (11/11, 11/20)  
 •EAGE Education Tour 13 (EET13)  
   演題:Velocities, Imaging, and Waveform inversion-The Evolution of Characterizing the Earth's Subsurface  
   講師: Ian Jones (ION, UK)  
   開催日: 12月11日(水)  
   開催場所:国際石油開発帝石, 参加者 20名

(5) 技術者継続教育活動  
 令和元年度も加盟している各学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続し, 会員の技術者継続教育活動をサポートした。

## [5] 物理探査に係る広報活動事業

- (1) 物理探査ニュース  
 「物理探査ニュース」No.42 から No.45 の 4 巻の発行を行い会員に配布した。また, 一般向けに 2018 年ハイライト(総集編)の発行を行った。
- (2) ホームページ  
 学会ホームページを見易くするために改訂作業を継続した。また, WEB を通じて広報に係る活動を実施した。
- (3) 海外学会での講習会開催  
 日本の土木物理探査を海外で普及する目的で、4月22日～26日にクアラルンプールで開催された EAGE-GSM Second Asia Pacific Meeting on Near surface Geoscience and Engineeringにおいて4月23日に講習会を実施した。

## [6] 物理探査学に係る研究, 活動に対する表彰事業

平成 31 年/令和元年度通常総会において, 平成 30 年度物理探査学会表彰を行った。

### [6-1] 第 59 回(平成 30 年度)物理探査学会賞

- (1) 論文業績賞  
 論文賞  
 •受賞者 : 今村 尚人, 後藤 忠徳, 笠谷 貴史  
 •対象論文:Naoto Imamura, Tada-nori Goto, Takafumi Kasaya, Hideaki Machiyama (2018): Robust data processing of noisy marine controlled-source electromagnetic data using independent component analysis, Exploration Geophysics, 49(1), 21–29.

## 事例研究賞

- ・受賞者：横田 俊之, 神宮司 元治, 山中 義彰, 村田 和則
- ・対象論文：Toshiyuki Yokota, Motoharu Jinguji, Yoshiaki Yamanaka and Kazunori Murata (2017): S-wave reflection and surface wave surveys in liquefaction affected areas: a case study of the Hinode area, Itako, Ibaraki, Japan, EG, 48(1), 1–15.

## 奨励賞

- ・受賞者：小林 佑輝
- ・対象論文：小林佑輝・成瀬涼平・薛 自求 (2018): 坑井内に展開した光ファイバーを用いての地震観測の可能性について—本邦初の DAS 計測で観測された自然地震を例として—, 物理探査, 71, 56–70.

## (2) 優秀発表賞

### 最優秀発表賞

- ① 第 138 回春季学術講演会(早稲田大学)  
二宮 啓(九州大学)  
対象：二宮 啓・池田 達紀・辻 健(九州大学)「雑微動を用いた表面波トモグラフィ解析—日本全域の三次元表面波位相速度の推定」
- ② 第 139 回秋季学術講演会(富山国際会議場)  
小西千里(応用地質)  
対象：小西 千里・鈴木 晴彦・佐藤 将・劉 瑛(応用地質株式会社), 鈴木 徹(モニ一物探)「三次元常時微動トモグラフィの浅部への適用性評価」

### 優秀発表賞

- ① 第 138 回春季学術講演会(早稲田大学)  
・口頭発表  
山田 勇次(京都大学)  
対象：山田 勇次・後藤 忠徳「Tipper を用いた地熱地域の地下比抵抗構造逆解析の試み」  
木佐貫 寛(土木研究所)  
対象：木佐貫 寛・小河原 敬徳・稻崎 富士・尾西 恒亮(土木研究所)  
「模擬堤防における基盤浸透過程のモニタリング」  
佐藤 礼(日本地下探査)  
対象：佐藤 礼・山田 信人・土家 輝光(日本地下探査), Barnes Christophe(セルジー・ポントワーズ大学)「HD(高精細)トモグラフィ」の導入と適用例」  
・ポスター発表  
星野 剛右(九州大学)  
対象：星野 剛右・岡本 駿一・田中 俊昭・水永 秀樹(九州大学), 奎田 健二・鈴木 浩一・海江田 秀志(電中研)「流体流動電磁法の測定器開発と注水モニタリング実験」
- ② 第 139 回秋季学術講演会(富山国際会議場)  
・口頭発表  
楠山永介(早稲田大学)  
対象：楠山 永介・左 一洋・香村 一夫(早稲田大学)  
「廃棄物埋立層内不飽和浸透流の比抵抗モニタリング」  
・ポスター発表  
山崎 聰司朗(早稲田大学)

対象:山崎 聰司朗・楠山 永介・左 一洋・香村 一夫(早稲田大学)

「模擬廃棄物層における埋没球体の IP 効果に対する基礎的な検討」

国際シンポジウム優秀発表賞 (シンポジウム会場にて開催最終日に表彰)

① 第 13 回 SEGJ 国際シンポジウム(国立オリンピック記念青少年記念センター)

・口頭発表

Jiahui Liu (北京大学)

対象:Jiahui Liu, Tianyue Hu (Peking University), Gengxin Peng and Yongfu Cui (Tarim Oilfield, PetroChina) “Attenuation of internal multiples by iterative construction of virtual primaries”

Vishal Das(スタンフォード大学)

対象:Vishal Das, Tapan Mukerji and Gary Mavko (Stanford University) “Finite element modeling of coupled fluid-solid interaction at the pore scale of digital rock samples”

上原 航(首都大学東京)

対象:Wataru Uehara and Yoshiya Oda (Tokyo Metropolitan University) “Study on ground displacement of Kozushima Island by SAR interferometry analysis”

・ポスター発表

大田 優介(京都大学)

対象:Yusuke Ohta, Tada-nori Goto, Katsuaki Koike, Koki Kashiwaya, Weiren Lin (Kyoto University), Osamu Tadai (Marine Works Japan), Takafumi Kasaya, Toshiya Kanamatsu and Hideaki Machiyama (Japan Agency for marine-earth Science and Technology) “Reproducing electrical conductivity characteristics of rock samples obtained from seafloor hydrothermal area with new rock physics model”

左 一洋(早稲田大学)

対象:Kazuhiro Hidari, Eisuke Kusuyama and Kazuo Kamura (Waseda University) “Evaluation of the metal-enriched zones in valley landfills using induced polarization method”

(3) 学会業績賞

学術業績賞 なし

運営功績賞 なし

## [6-2] 第 59 回(平成 30 年度)永年貢献表彰

(1) 永年在籍会員表彰

① 在籍 30 年以上, 満 70 歳以上

棚橋 道郎, 勝山 明雄, 太田 陽一, 大友 秀夫, 林 久夫, 新沼 岩保  
中村 操, 横倉 隆伸, 小島 正和, 伊藤 久男, 兼間 強, 沖津 文雄

② 50 年在籍賛 助会員

川崎地質株式会社, 基礎地盤コンサルタント株式会社, 総合地質調査株式会社,  
日本海上工事株式会社

③ 30 年在籍賛助会員

株式会社大林組

(2) 名誉会員表彰 なし

[7] その他目的を達成するために必要な事業

学会の活性化を図るために、学会業務のIT化を継続的に推進すると共に、学会ホームページの維持管理を行った。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

令和元年 6 月 4 日(火)、東京、早稲田大学国際会議場 3F第1会議室にて開催した。

[2] 理事会

下記のとおり理事会を開催した。

第 96 回理事会	平成 31 年 4 月 19 日	物理探査学会会議室
第 97 回理事会	令和元年 7 月 19 日	物理探査学会会議室
第 98 回理事会	令和元年 10 月 7 日	物理探査学会会議室
第 99 回理事会	令和2年 1 月 17 日	物理探査学会会議室

3. 会員状況

	平成 31 年 3 月末	令和 2 年 3 月末	増 減
名誉会員	16 名	13 名	3 名減
正会員	1125 名	1106 名	19 名減
(学生会員)	(59 名)	(54 名)	(5 名減)
賛助会員	106 社 215 口	105 社 214 口	1 社・1 口減

正会員数には()内の学生会員数を含む

以上

## II. 令和元年度決算報告

### 貸借対照表

公益社団法人 物理探査学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	22,226,807	30,488,995	△ 8,262,188
未収金	496,100	0	496,100
棚卸資産	3,299,937	3,757,302	△ 457,365
流動資産合計	26,022,844	34,246,297	△ 8,223,453
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
公益目的運用特定資産	21,000,000	21,000,000	0
技術普及積立資産	793,487	793,487	0
周年事業積立資産	5,000,000	0	5,000,000
特定資産合計	26,793,487	21,793,487	5,000,000
(3) その他固定資産			
敷金	660,000	660,000	0
その他固定資産合計	660,000	660,000	0
固定資産合計	27,453,487	22,453,487	5,000,000
資産合計	53,476,331	56,699,784	△ 3,223,453
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	137,871	208,970	△ 71,099
前受金	8,800	18,360	△ 9,560
前受会費	40,500	116,640	△ 76,140
預り金	77,606	93,333	△ 15,727
仮受金	13,200	13,500	△ 300
未払消費税等	192,500	498,900	△ 306,400
流動負債合計	470,477	949,703	△ 479,226
負債合計	470,477	949,703	△ 479,226
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)			
正味財産合計	53,005,854	55,750,081	△ 2,744,227
負債及び正味財産合計	(26,793,487)	(21,793,487)	(5,000,000)
	53,476,331	56,699,784	△ 3,223,453

公益社団法人物探査学会 正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	2,097	2,097	0
受取会費	11,735,892	12,358,550	△ 622,658
正会員会費収入	7,515,892	8,038,550	△ 522,658
賛助会員会費収入	4,220,000	4,320,000	△ 100,000
事業収益	8,031,988	23,827,161	△ 15,795,173
開催事業収入	5,358,650	15,273,000	△ 9,914,350
受取投稿料	529,420	81,000	448,420
領布事業収入	1,647,818	2,545,041	△ 897,223
受託事業	496,100	5,928,120	△ 5,432,020
受取補助金	65,000	4,379,000	△ 4,314,000
受取寄付金	1,145,420	1,355,900	△ 210,480
一般寄付金	1,145,420	1,345,900	△ 200,480
記念事業寄付金	0	10,000	△ 10,000
雑収入	128,267	164,101	△ 35,834
経常収益計	21,108,664	42,086,809	△ 20,978,145
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	20,829,650	39,052,492	△ 18,222,842
臨時雇賃金	4,610,492	5,357,685	△ 747,193
退職給付費用	991,500	1,066,000	△ 74,500
福利厚生費	378,684	425,495	△ 46,811
旅費交通費	428,365	425,076	3,289
会議費	1,450,847	2,736,227	△ 1,285,380
通信運搬費	1,414,289	2,625,226	△ 1,210,937
消耗品費	753,770	922,972	△ 169,202
印刷製本費	351,612	530,479	△ 178,867
光熱水料費	2,027,303	2,098,121	△ 70,818
賃借料	322,238	350,995	△ 28,757
保険料	5,005,890	7,301,646	△ 2,295,756
諸謝金	8,648	8,874	△ 226
出版物原価	478,894	897,997	△ 419,103
支払負担金	457,365	747,450	△ 290,085
表彰品費	168,953	173,885	△ 4,932
支払奨励金	118,410	188,333	△ 69,923
支払手数料	20,000	20,000	0
租税公課	254,757	312,260	△ 57,503
委託費	152,971	505,904	△ 352,933
雑費	1,392,443	12,293,402	△ 10,900,959
管理費	42,219	64,465	△ 22,246
経常費用計	3,023,241	1,672,944	1,350,297
評価損益等調整前当期経常増減額	1,233,508	686,315	547,193
評価損益等計	101,316	54,505	46,811
当期経常増減額	114,606	54,450	60,156
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,744,227	1,361,373	△ 4,105,600
一般正味財産期首残高	55,750,081	54,388,708	1,361,373
一般正味財産期末残高	53,005,854	55,750,081	△ 2,744,227
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	53,005,854	55,750,081	△ 2,744,227

公益社団法人物理探査学会 正味財産増減計算書内訳表

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	2,097	0	2,097
受取会費	8,729,536	3,006,356	11,735,892
正会員会費収入	4,509,536	3,006,356	7,515,892
賛助会員会費収	4,220,000	0	4,220,000
事業収益	8,031,988	0	8,031,988
開催事業収入	5,358,650	0	5,358,650
受取投稿料	529,420	0	529,420
領布事業収入	1,647,818	0	1,647,818
受託事業	496,100	0	496,100
受取補助金	65,000	0	65,000
受取寄付金	1,145,420	0	1,145,420
一般寄付金	1,145,420	0	1,145,420
雑収入	119,072	9,195	128,267
経常収益計	18,093,113	3,015,551	21,108,664
(2) 経常費用			
事業費	20,829,650		20,829,650
給料手当	4,610,492		4,610,492
臨時雇賃金	991,500		991,500
退職給付費用	378,684		378,684
福利厚生費	428,365		428,365
旅費交通費	1,450,847		1,450,847
会議費	1,414,289		1,414,289
通信運搬費	753,770		753,770
消耗品費	351,612		351,612
印刷製本費	2,027,303		2,027,303
光熱水料費	322,238		322,238
賃借料	5,005,890		5,005,890
保険料	8,648		8,648
諸謝金	478,894		478,894
出版物原価	457,365		457,365
支払負担金	168,953		168,953
表彰品費	118,410		118,410
支払奨励金	20,000		20,000
支払手数料	254,757		254,757
租税公課	152,971		152,971
委託費	1,392,443		1,392,443
雑費	42,219		42,219
管理費		3,023,241	3,023,241
給料手当		1,233,508	1,233,508
退職給付費用		101,316	101,316
福利厚生費		114,606	114,606
旅費交通費		93,920	93,920
会議費		33,852	33,852
通信運搬費		44,849	44,849
消耗品費		68,854	68,854
印刷製本費		14,292	14,292
光熱水料費		83,418	83,418
賃借料		974,450	974,450
保険料		2,312	2,312
支払手数料		54,887	54,887
租税公課		40,929	40,929
支払負担金		15,840	15,840
委託費		134,912	134,912
雑費		11,296	11,296
経常費用計	20,829,650	3,023,241	23,852,891
評価損益調整前当期増減額	△ 2,736,537	△ 7,690	△ 2,744,227
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,736,537	△ 7,690	△ 2,744,227
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,736,537	△ 7,690	△ 2,744,227
一般正味財産期首残高	22,233,487	33,516,594	55,750,081
一般正味財産期末残高	19,496,950	33,508,904	53,005,854
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	19,496,950	33,508,904	53,005,854

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準方法は、先入先出法による原価法を採用している。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税は税込み処理を行っている。

### 2. 特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的運用特定資産	21,000,000	0	0	21,000,000
技術普及積立資産	793,487	0	0	793,487
周年事業積立資産	0	5,000,000	0	5,000,000
	21,793,487	5,000,000	0	26,793,487

### 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等は、一般正味財産からの充当額である。

### 4. 担保に供している資産

該当なし。

### 5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

### 6. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位:円)

補助金の名称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
学術講演会 補助金	早稲田大学	0	65,000	65,000	0	
合 計		0	65,000	65,000	0	

### 7. 重要な後発事象

該当なし

## 財產目錄

令和 2年 3月31日現在

公益社団法人 物理探査学会

(単位:円)

## 附 屬 明 細 書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載のとおりである。

## 監 査 報 告 書

公益社団法人 物理探査学会

会長 大熊 茂雄 殿

令和2年4月20日  
公益社団法人 物理探査学会

監事 大西正純

監事 西田大介

私たちは、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における業務の監査を行い、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及び内容

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他重要な会議に出席し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。

### 2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益状況を全ての重要な点において適正に表示していると認めます。
- (2) 事業報告書の内容は事実であると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以 上

## 第2号議案:令和2年度・3年度役員改選の件

物理探査学会規則第4章に基づき、役員(理事及び監事)選挙の公示を決議し、令和元年12月15日～令和2年1月30日の間、役員候補者の公募を実施しました。その結果、定数の理事20名、監事2名に対して下記のとおり理事20名、監事2名の推薦があり、役員候補者選考委員会による資格審査を経て第100回理事会に付議され、理事会は役員候補者を役員選任議案として提出いたします。本総会では、候補者の理事、監事への選任についてお諮りします。なお、選任された役員の任期は令和4年度の通常総会において次期役員が選任されるまでの2年間となります。

### 令和2年度・3年度の役員候補者一覧

会務	氏名	所属	区分
理事候補	石垣 孝一	株式会社日本地下探査	新任
	大熊 茂雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所	重任
	岡田 聰	応用地質株式会社	新任
	小田 義也	東京都立大学	重任
	岸本 宗丸	日鉄鉱コンサルタント株式会社	重任
	倉橋 稔幸	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所	新任
	黒田清一郎	国立研究開発法人農研機構農村工学研究所	重任
	小澤 岳史	株式会社地球科学総合研究所	新任
	後藤 忠徳	兵庫県立大学	重任
	佐伯 龍男	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構	新任
	佐子 周作	国際石油開発帝石株式会社	新任
	志賀 信彦	三井金属資源開発株式会社	新任
	鈴木 敬一	川崎地質株式会社	重任
	羽佐田葉子	大和探査株式会社	新任
監事候補	松島 潤	東京大学	重任
	光畠 裕司	国立研究開発法人産業技術総合研究所	重任
	山根 照真	石油資源開発株式会社	重任
	山本 英和	岩手大学	重任
	吉川 猛	基礎地盤コンサルタント株式会社	新任
	渡辺 俊樹	名古屋大学	重任
監事候補	大貫 良太	監査法人 MMPG エーマック(公認会計士)	新任
	莊司 泰敬	応用地質株式会社	新任

## 第3号議案:定款及び役員の報酬、変更の件

現在、役員は正会員の中から選任し、報酬を受けないことになっています。一方で、公益法人の監査においては会計制度等に関する専門的知識が必要となるため、幹事のうち1名は公認会計士などの資格を有する会員以外の者を外部監事として選任可能と致します。現状の規程では相応の対価を支払うことができませんので、あまり無理なく依頼できるように当該の監事については報酬を支払えるようにしたいと思います。そのため、定款第28条の変更及び役員の報酬・退職金に関する規程に定める報酬額を年額60,000円の範囲内とすることを提案いたします。

定款の変更:定款 第33条を次のように変更する。

改定後	現行
<p>(役員の選任)</p> <p>第28条 役員は、総会の決議によって、<u>正会員の中から</u>選任する。</p> <p><u>2 前項の規定に関わらず、監事のうち1名については、公益法人の会計制度等に関する専門的知識を有する正会員以外の者（以下「外部監事」という。）を選任することができる。</u></p> <p><u>3 会長は、理事会の決議によって理事の中から選任する。</u>《以下省略》</p>	<p>(役員の選任)</p> <p>第28条 役員は、総会の決議によって選任する。</p> <p><u>2 会長は、理事会の決議によって理事の中から選任する。</u></p> <p>《以下省略》</p>
<p>(役員の報酬)</p> <p>第33条 役員は、無報酬とする。</p> <p><u>2 前項の規定に関わらず、外部監事には総会において別に定める役員の報酬・退職金に関する規程に従って、理事会の決議を経て報酬を支給することができる。</u></p>	<p>(役員の報酬)</p> <p>第33条 役員は、無報酬とする。</p>

### 役員の報酬・退職金に関する規程の変更

改定後	現行
<p>(目的)</p> <p>第1条 本規程は、定款第33条の役員の報酬について必要な事項を定めるものである。</p>	<p>(目的)</p> <p>第1条 本規程は、定款第33条の役員の報酬について必要な事項を定めるものである。</p>
<p>(役員の範囲)</p> <p>第2条 役員とは、定款第27条、第28条で定める社員総会で選任された理事および監事をいう。</p>	<p>(役員の範囲)</p> <p>第2条 役員とは、定款第27条、第28条で定める社員総会で選任された理事および監事をいう。</p>
<p>(役員の報酬)</p> <p>第3条 定款第33条書き役員は、その任期中報酬を受けず、退任時において退職金は支給されない。</p> <p><u>2 前項の規定に関わらず、外部監事には、理事会の決議を経て以下の範囲内で報酬を支給することができる。</u></p> <p><u>年額 60,000円</u></p>	<p>(役員の報酬)</p> <p>第3条 役員は、その任期中報酬を受けず、退任時において退職金は支給されない。</p>
<p>(規程の改廃)</p> <p>第4条 本規程の報酬額の改廃は、<u>総会</u>の議決を経て行うものとする。</p>	<p>(規程の改廃)</p> <p>第4条 本規程の改廃は、理事会の議決を経て行うものとする。</p>

## 第4号議案：名誉会員推薦の件

令和2年4月に開催された第100回理事会の決議により、松岡 俊文 氏を名誉会員に推薦します。

### 推薦理由

松岡 俊文 氏は、平成14年～25年まで本学会の理事を12年にわたり務められ、平成18年～19年には会長を務められました。また、企画調査委員、編集委員、事業委員をはじめ多くの委員会に参加され、平成5年～6年に企画調査委員長、平成16年～17年に編集委員長を務められ、委員会活動をリードされてきました。さらに、平成14年～17年には物理探査用語辞典委員会の委員長として新版物理探査用語辞典の編集に貢献され、学会活動に大きく貢献されました。

研究発表や論文投稿は多岐にわたり、学会誌には40編以上の論文を投稿するとともに学術講演会へは200編もの投稿があります。昭和63年には「地震反射法データ処理の高精度化の研究－主として統計的手法の応用－」に対して物理探査学会賞が授与されました。

松岡氏は研究者のみならず優れた教育者であり、石油資源開発株式会社ならびに京都大学在職中に後進の指導、次世代を担う人材の育成に尽力され、優秀な技術者、研究者を多数育てました。このように、同氏の物理探査ならびに本学会への貢献は多大です。

# 令和2年度事業計画

## I. 令和2年度事業計画

令和2年度は、これまで実施してきた研究開発奨励促進事業、探査技術の普及促進事業、広報活動、研究活動及び表彰等の事業を継続・発展させるとともに、会員へのサービスの拡大並びに一般社会への貢献にこれまで以上に力を注いで学会活動の充実を図ります。

### 1. 学会事業活動

#### [1] 研究発表会の開催

物理探査学に係る研究開発の奨励促進を図るために以下の事業を実施する。

##### (1) 第142回学術講演会

- ・開催日 令和2年 6月1日(月)～6月3日(水)
- ・開催場所 早稲田大学 国際会議場(東京)

第142回学術講演会は、新型コロナウイルス対応のため中止しました。

##### (2) 第143回学術講演会

- ・開催日 令和2年 11月25日(水)～11月27日(金)
- ・開催場所 サンポートホール高松

#### [2] 会誌、書籍の編集発行等の事業

##### (1) 和文会誌発刊

和文誌「物理探査」は J-Stage から論文を閲覧するようになっている。ただし、少数部数ではあるが、今年度も昨年度 1月から今年度 12月末までの論文をまとめた冊子を発行し、希望者には有償で販売する。

##### (2) 英文会誌発刊

豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同で出版する英文誌「Exploration Geophysics」について、電子版を4号発行する。

##### (3) 技術資料等の頒布

以下に示す既存の技術資料等の出版物を継続して頒布する。

- ・旧版物理探査適用の手引き(英文)
- ・会誌「物理探査」DVD(第1巻～第60巻)
- ・学術講演会論文集DVD(第43回～第118回)
- ・国際シンポジウム論文集DVD(第1回～第8回)
- ・学術講演会論文集(冊子、CD)
- ・地下を診る技術～驚異の物理探査
- ・物理探査ハンドブック増補改訂版(冊子、CD)

#### [3] 研究開発、調査、コンソーシアム活動等の事業

##### (1) 研究会活動

- ・ドローン物理探査研究会
- ・地盤探査研究会
- ・電気探査研究会
- ・地震防災研究会
- ・地盤調査のための物理探査法標準化検討委員会

[4] 講座、セミナーの開催、関連学協会との協力等の事業

(1) 物理探査セミナー

- ・~~開催日 令和2年7月7日～9日(3日間)を予定~~
- ・~~開催場所 山上会館~~

(2) ワンデーセミナー

- ・開催日 令和3年1月下旬～2月上旬を予定
- ・開催場所 首都圏

(3) キャンパスビギット

- ・年間2回程度開催を予定
- 開催場所は、リクエストを考慮し決定
- 事業名称や対象範囲等に関して検討予定

(4) 関連学協会との連携・協力

① 国内関連学協会

(公社)日本地球惑星科学連合、(一社)資源・素材学会、(一社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(公社)日本地震学会、(一社)日本応用地質学会、(公社)地盤工学会、(公社)計測自動制御学会、(公社)土木学会、(一社)全国地質調査業協会連合会、石油技術協会、(一社)日本非破壊検査協会、(公社)日本地震工学会と講演会、セミナー等で相互に協力する。

② 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星連合大会 2020年大会 (JpGU Meeting 2020) では、「空中からの地球計測とモニタリング」、「浅部物理探査が目指す新しい展開」、「地震波伝播：理論と応用」及び「Electric and Electromagnetic survey technologies and the scientific achievements:Recent advances」という4つのセッションを企画する。また、学協会デスクスペースでのブース展示を行う。

③ 海外関連学会

下記関連国際学会の講演会・年次総会に参加して国際交流を深めると共に、国際レベルの物理探査技術を会誌、ホームページ等を通じて紹介する。

- ・欧州物理探査学会(EAGE)
- ・米国物理探査学会(SEG)
- ・環境土木物理探査学会(EEGS)
- ・豪州物理探査学会(ASEG)
- ・韓国物理探査学会(KSEG)
- ・中国石油物理探査学会(SPG China)
- ・ベトナム物理探査学会(VGA)
- ・インドネシア物理探査学会(HAGI)

④ SEG等海外学会教育プログラムの開催支援

海外の関連学会 SEG 及び EAGE が主催し、日本国内で実施する下記の物理探査技術の教育・普及活動に対して本年度も参加者の募集、会場の運営等、その支援を行う。

・SEG 2020 Distinguished Instructor Short Course (DISC)

演題: Designing and acquiring seismic surveys in light of today's technology

講師: Dave Monk (Apache)

日時: 令和2年10月26日(月)

場所: 未定

・EAGE Education Tour 14 (EET14)

演題: Operational Geomechanics: Characterization of Rock Stress, Rock Fractures and Rock Stability for Energy, Environmental, and Engineering Industrial Operations in the Lithosphere

講師: Mohammed Ameen (Retired from Saudi Aramco)

物理探査セミナーは、新型コロナウイルス対応のため、この日程での開催は中止とします。今後の予定については未定です。

日 時:未定  
場 所:未定  
・Honorary Lecture (HL)は中止

(5) 技術者継続教育活動

令和2年度も加盟している各学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続し、会員の技術者継続教育活動をサポートする。

[5] 物理探査に係る広報活動事業

(1) 物理探査ニュース

物理探査に係る広報活動事業の一環として、物理探査ニュース(No.46～No.49)の4巻の発行を行い、会員に配布するとともに物理探査に関する機関に広く無償で配布する。また、一般向けに2020年ハイライト(総集編)の発行を行う。

(2) ホームページ

学会ホームページをさらに見易くかつ親しみやすいものへ更新し、WEBを通じて学会活動の広報及び会員相互の情報共有の活性化を図る。

(3) ブース出展

日本地球惑星連合2020大会では、学協会デスクを出展し、学会の広報及び新規会員の勧誘に努める。

(4) 海外学会での講習会開催

日本の土木物理探査を海外で普及する目的で、~~4月19日(日)にバンコク・チェンマイにてEAGEとの共催で講習会を実施する。また、その前にカセサート大学において4月17日(金)に講習会を行う。~~

[6] 物理探査学に係る研究、活動に対する表彰事業

令和元年度において、以下の表彰等を行う。

[6-1] 物理探査学会賞

(1) 物理探査学会賞・論文業績賞

① 論文賞、事例研究賞

会誌に発表された論説・論文・短報の中から特に優秀なものに物理探査学会論文賞を、ケーススタディ・技術報告の中から特に優秀なものに同事例研究賞を、また、探査技術の進歩に寄与あるいは著しい探査成果をあげた業績の中から特に優秀なものに同業績賞を授与する。

② 物理探査学会奨励賞

若手会員の活動を評価・支援するべく奨励賞を授与する。

(2) 学術講演会等における物理探査学会賞・優秀発表賞

学術講演会等の活性化と技術の向上を図るため、最優秀発表賞と若手研究者、技術者(35歳以下)を対象とした優秀発表賞を授与する。

(3) 物理探査学会賞・学術業績賞

探査技術の進歩に寄与し、あるいは著しい探査結果を上げた業績の中から特に優秀な者に授与する。

(4) 物理探査学会賞・運営功績賞

運営発展に特段の功績があった会員あるいは団体に運営功績賞を授与する。

[6-2] 永年貢献表彰

(1) 永年在籍会員表彰

在籍30年かつ満70歳を超える正会員、及び在籍30年に達した賛助会員と50年に達した賛助会員に授与する。

(2) 名誉会員表彰

講習会は新型コロナウイルス対応のため、この日程での開催は中止となりました。EAGEによる本体会議の3rd Asia Pacific Meeting on Near Surface Geoscience & Engineeringは2020年の11月に延期されました。今後の予定については未定です。

満 70 歳を超える会長の経験者または物理探査に関する学術、技術の発展に大きな貢献があった会員、あるいは会員歴 30 年以上でかつ 10 年以上本学会の役員を勤め学会の運営発展、学術・技術貢献、学会発展に貢献があつた会員に授与する。

[7] その他目的を達成するために必要な事業

学会の活性化を図るため継続して学会業務のIT化を推進すると共に、学会ホームページの維持管理を行う。

## 2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

令和 2 年 6 月 8 日(火)、公益社団法人物理探査学会・事務局会議室にて開催する。

[2] 理事会

令和 2 年度中に 4 回開催する。

[3] 運営幹事会

令和 2 年度中に必要に応じて開催する。

## II. 令和2年度收支予算

公益社団法人物理探査学会	正味財産増減計算書内訳表 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで		(単位：円)
	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,000	0	1,000
受取会費	10,476,400	4,117,600	14,594,000
正会員会費収入	6,176,400	4,117,600	10,294,000
贊助会員会費収入	4,300,000	0	4,300,000
事業収益	6,662,000	0	6,662,000
開催事業収入	4,621,000	0	4,621,000
受取投稿料	150,000	0	150,000
頒布事業収入	1,891,000	0	1,891,000
受託事業	0	0	0
受取補助金	65,000	0	65,000
受取寄付金	1,025,000	0	1,025,000
雑収入	97,000	0	97,000
経常収益計	18,326,400	4,117,600	22,444,000
(2) 経常費用			
事業費	18,326,400	0	18,326,400
給料手当	4,156,855	0	4,156,855
臨時雇賃金	1,000,000	0	1,000,000
退職給付費用	327,096	0	327,096
福利厚生費	340,726	0	340,726
旅費交通費	1,091,508	0	1,091,508
会議費	426,774	0	426,774
通信運搬費	504,032	0	504,032
消耗品費	160,290	0	160,290
印刷製本費	1,844,145	0	1,844,145
光熱水料費	261,802	0	261,802
賃借料	5,000,296	0	5,000,296
保険料	6,815	0	6,815
諸謝金	520,000	0	520,000
出版物原価	500,000	0	500,000
支払負担金	131,331	0	131,331
表彰品費	130,000	0	130,000
支払手数料	163,661	0	163,661
租税公課	174,112	0	174,112
委託費	1,502,581	0	1,502,581
雑費	84,376	0	84,376
管理費	0	4,117,600	4,117,600
給料手当	0	1,943,145	1,943,145
退職給付費用	0	152,904	152,904
福利厚生費	0	159,274	159,274
旅費交通費	0	111,492	111,492
会議費	0	38,226	38,226
通信運搬費	0	50,968	50,968
消耗品費	0	63,710	63,710
印刷製本費	0	31,855	31,855
光熱水料費	0	98,198	98,198
賃借料	0	1,163,504	1,163,504
保険料	0	3,185	3,185
支払手数料	0	57,339	57,339
支払負担金	0	28,669	28,669
委託費	0	127,419	127,419
雑費	0	87,712	87,712
経常費用計	18,326,400	4,117,600	22,444,000
評価損益調整前当期増減額	0	0	0

## 令和元年度 物理探査学会表彰

### 第 60 回(令和元年度)物理探査学会賞

#### (1) 論文業績賞

##### 論文賞

・受賞者 : 清水智明・小田義也

・対象論文: 清水智明・小田義也(2019): 薬液注入の浸透過程を監視するための比抵抗トモグラフィの時系列解析法の提案, 物理探査, 72, 139-154.

##### 事例研究賞

・受賞者 : 猪野 滋, 須田茂幸, 菊地秀邦, 大川史郎, 阿部信太郎

・対象論文: 猪野 滋・須田茂幸・菊地秀邦・大川史郎・阿部信太郎・大上隆史(2018): 超高分解能三次元地震探査(UHR3D) — 日奈久断層帯海域部における実施例 —, 物理探査, 71, 33-42.

##### 奨励賞

・受賞者 : 岡田真介・楮原京子・今井幹浩

・対象論文: 岡田真介・坂下 晋・楮原京子・山口 覚・松原由和・山本正人・外處 仁・今井幹浩・城森 明(2018): 横ずれ断層における各種物理探査の適用可能性の検討(その 1: 浅層反射法地震探査・屈折法地震探査・CSAMT 探査・重力探査) — 郷村断層帯および山田断層帯における事例 —, 物理探査, 71, 103-125.

#### (2) 優秀発表賞

##### —最優秀発表賞

① 第 140 回春季学術講演会 (早稲田大学)

村田 泰章 (産総研)

対象: Scintrex 重力計を用いた微小重力モニタリングのための精密ドリフト補正

② 第 141 回秋季学術講演会 (いわて県民情報交流センター)

末本 雄大(九大)

対象: 末本 雄大・池田 達紀・辻 健(九大), 飯尾 能久(京大); 表面波トモグラフィ解析を用いた地殻浅部における高解像度 3 次元 S 波速度構造の推定

##### —優秀発表賞

③ 第 140 回春季学術講演会(早稲田大学)

##### ・口頭発表

二宮 啓 (九州大学)

対象: 二宮 啓・池田 達紀・辻 健 (九州大学); 微動を用いた広域 3 次元 S 波速度構造モデ

ルの推定—自動表面波位相速度推定に向けて—

佐藤 真也 (京都大学)

対象: 佐藤 真也・後藤 忠則(京都大学); MT インピーダンスの回転不变量の時間的変動につい  
て

重藤 迪子 (九州大学)

対象:重藤廸子(九州大学), 高井 伸雄(北海道大学), 堀田 淳・野本 真吾(ジオテック), 前田 宣浩(防災科研), 山中 浩明・地元 孝輔(東京工業大学), 津野 靖士・是永 将宏(鉄道総研), 山田 伸之(高知大学); 北海道むかわ町における単点微動観測

・ポスター発表

宮田 匡人 (早稲田大学)

対象:宮田 匡人・楠山 永介・左 一洋・香村 一夫(早稲田大学); 重金属汚染水のカラム吸着実験における比抵抗モニタリング

#### (4) 第 141 回秋季学術講演会(いわて県民情報交流センター)

・口頭発表

二宮 啓(産総研)

対象:二宮 啓(産総研), 池田 達紀・辻 健(九大); MeSO-net を用いた表面波トモグラフィ解析による首都圏の堆積層の 3 次元 S 波速度構造の推定

地元 孝輔(東工大),

対象:地元 孝輔・山中 浩明(東工大), 津野 靖士・是永 将宏(鉄道総研), 三宅 弘恵(東大), 先名 重樹(防災科研), 吉見 雅之(産総研), 杉山 長志; 富士川河口断層帯周辺における微動アレイ探査と地震波干渉法による S 波速度構造モデルの検証

・ポスター発表

杉野 由樹 (早稲田大学)

対象:杉野由樹・上田匠(早稲田大学), 大熊茂雄(産総研); 重・磁力データ解析のための岩石物性の測定-北海道武佐岳地域を例として

#### (3) 学会業績賞

－学術業績賞 なし

－運営功績賞

千葉 昭彦(住鉱資源開発)

地熱調査のための空中物理探査技術の発展及び普及に係る功績

#### (4) 永年貢献表彰

－永年在籍会員表彰

① 在籍 30 年以上, 満 70 歳以上

井上 誠, 大川 史郎, 佐々木 裕, 野口 徹, 松岡 俊文

② 50 年在籍賛助会員 なし

③ 30 年在籍賛助会員

中央復建コンサルタンツ株式会社, 北光ジオリサーチ株式会社

－名誉会員表彰

松岡 俊文

以上